

守岡・井上両議員が一般質問

12月定例会で「一人でも安心して生活できる社会づくり」を提案しました

社会的孤立(孤独死)を防ぐ行政の役割、

24時間対応の介護サービスの整備を提案

本市においても一人暮らしや高齢者世帯が増えています。また、誰にも看取られずに死亡し、一定期間発見されない孤独死の事例も増えています。私自身この間立って続けに経験しました。

たとえ一人暮らしでも地縁や血縁などのネットワークによって安心した生活を送ることは可能ですが、社会的に孤立している人に対しては、包括的な支援機関を設置し、医療・保健・福祉の総合的な支援を行う必要があります。

社会的に孤立している方は高齢者だけでなく、青年層にも及んでいます。様々な精神疾患を患っている方も多いことから、きちんとした医療対応が必要です。私は社会的孤立を防ぐための行政の役割の強化を提案しました。

市長は、国においても包括的な支援体制の整備をめざしているとし、国・県の動向を注視しながら関係機関との連携を図り、対応していくと答えました。

これからの医療・介護は病院や介護施設でのサービスではなく、在宅におけるサービスが中心となります。自分の家で最期を迎えたいという市民の願いはあるものの、核家族化が進み、共働き世帯が多い本市では、医療機関や介護事業所の支援なしでは最期の看取りを行うことは困難です。そのために、24時間・365日の訪問看護と訪問介護などを提供する「看護小規模多機能型居宅介護サービス」の整備を提案しました。

市長は、次期介護保険事業計画で、住民ニーズ等をふまえ、総合的に判断していくと答えました。

見守りを強化するために、緊急通報システムの改善が必要です。また、見守りセンサーカメラや電化

看護小規模多機能型居宅介護とは

24時間・365日の訪問看護と訪問介護、デイサービス、ショートステイを同一事業所で提供する介護保険サービス。常勤の保健師または看護師、ケアマネジャーの配置が義務づけられています。

県内では山形市、米沢市などで整備が進んでいます。



総務文教常任委員会での発言

ふるさと納税、特別交付税、上山小のグラウンド整備、北中のトイレ改修、地区公民館の指定管理者制度などについて質したほか、教育問題では特に中学生の学力格差の問題で、最も下位層の得点分布が多くなっていることを指摘し、その対応を求めました。

指定管理者制度について

総括質疑を行いました。

指定管理者制度とは、経営的視点に立った効率的な行政運営と市民と行政の協働によるまちづくりを進めるために始まった制度です。

12月定例会では、上山城・地区公民館など、指定期間の満了に伴う新たな指定と、めんごりあなど新たに指定管理者制度を導入する施設の指定管理者について提案されました。

指定管理者制度は公募方式が前提ですが、地区公民館などは公共性・地域性が考慮され非公募となっています。私は今後、上山城についても高度な専門性とそのノウハウの蓄積が必要であること、地域の伝統に根ざした公共施設であること、学芸員をはじめとする職員の安定した雇用の確保の面などから非公募にすることを求めました。

総合子どもセンター「めんごりあ」について、指定管理者となる事業者（東京ドーム）が中心市街地との関わりでどのような役割を果たすのか質したところ「事業者は地域の一員として地域活性化に資する取組の実施を強く表明している。指定管理者と周辺商店街が協力し合うことで中心市街地に賑わいが創出されることを期待している」と市長は答えました。